平成21年11月26日

11月号

親子で烏帽子登山に挑戦









昨年は、白鳥山・御池登山をしましたが好評であったことから、 今年は、8日(日)に烏帽子山に親子登山をしました。先頭には、 今年も地域の山々をすべて知り尽くしていらっしゃる村川千代次 さんに案内役を引き受けていただきました。出発したときの元気 な表情も上り下りが続く登山道を 2 時間歩く頃には、「まだじゃろ か。」と何度も聞くなど表情もみんな疲れ気味です。途中、原生林 の巨木が生い茂る登山道には倒木やホウムキ(キノコ)そして大 きなサルノコシカケが見られるなど普段見られない光景が続きま した。登山には片道2時間半を要しましたが、お昼にはお母さん が作ってくれた今日のお弁当が何倍も美味しいと言っていました。 頂上では平均年齢70歳の宇土登山愛好家20人とも合流し会話 に花が咲きました。頂上では、眼下に通ってきた登山ルートや宮 崎県椎葉村そして市房山や五家荘の山々がはっきり確認できるな ど最高の親子登山となりました。お土産には、たくさんのホウム キを千代次さんに収穫していただきました。また、そっくりな毒 キノコも教えてもらうなど学ぶことの多かった遠足でした。

蜂の子料理を体験







5日(木)の放課後にアカ蜂の料理体験をしました。何段にも重なっ た巣から大人蜂も、羽化した蜂も、巣穴に入っている幼蜂も、すべて 子ども一人一人が取り出します。蜂の巣から幼虫を取り出すのは子ど も全員で、「わあ、気持ち悪い」と言いながらも、たくさんの蜂の子を 取り出してカラッと油で揚げ、あじ塩をまぶして、さあ試食です。「食べ きらん」と言っていたのに、あれだけあった蜂の子は、あっという間に 無くなりました。最後に山口さんから蜂の子を食材とするにいたった経 緯などについて詳し〈お話をしていただきました。本校の田舎の贅沢 体験の一つです。少しは先生たちにも残してと思ったのですが・・・。

廃油石鹸をプレゼント

3・4年生は、総合的な学習として1学期から取り組んでいた 廃油石鹸が完成したことから、16 日(月)と三連休中に校区内 にお住まいの方々に日ごろの感謝の気持ちを込めて、各家庭を訪 問して廃油石鹸をプレゼントしました。今後も本校はエコ活動を 一層進め、環境を守る子どもたちを育てていきます。







泉中学校へ体験入学・入寮

6 年生は、泉中学校入学を前にして 12 日(木)から 13 日(金)に かけて体験入寮および体験入学に出かけました。実際に中学生にな ると 4 月から入寮する本校の子どもたちは、八小の卒業生の先輩た ちと楽しいひとときを過ごしました。13 日には、泉町内の4 つの小学 校から全6年生が集まって、中学校での体験学習をしました。







*∞∞*宮崎県椎葉村からイチゴの差し入れ*∞∞∞*

24日に樅木と深い交流のある椎葉村でイチゴ農家をされてき ミいるユウサクさんのお父さんが、わざわざ山を越えて子どもたミ うちに沢山のイチゴを届けられました。子どもたちはみんな大喜。 ミび。 給食で食べて、残りは自宅にお土産として持ち帰りました。 ミ

6年生は史跡巡りに

25日(水)に泉町内の6年生は、一台のバスに乗って八代市 内の史跡巡りに出かけました。石匠館・大鞘樋門・松浜軒・八代 城趾・八代神社・谷川古墳を直接訪問して、八代市の歴史や文化 に触れました。







先日、熊本の新市街の映画館で上映した天草の御所浦を舞台としたドキュメンタリー「グレーのバリエーション」の遠山昇司監督が遠路、 ミ来校された。鏡小学校の12年の時に小生が遠山氏の担任をしていたことから、上映案内を受けたり電話で近況を聞いたりしていた。早速、 、家内と一緒に映画館に出向いて鑑賞した。終了後その感動に浸りながら出口に向かうと、監督はテレビやラジオ出演に追われていたため。 、本人に代わってお母さんが観客一人一人にお礼の言葉をかけられていた。小生に気づかれたお母さんからの感謝の一言も、胸を熱〈した。 再会は16年ぶりであったが、精悍な顔立ちと紳士的な態度に感動を覚えた。その日は、教師としての嬉しさとやりがいを痛感した最高の ・日となった。鏡中、八高、法政大、ボストン大学、早稲田大で勉学に勤しみ、有名映画監督の下で師事して現在に至っている。人に言えな [>]いくらい大変な苦労をしただろうが、そのとき一言も弱音や愚痴を溢さなかった。 持ち前の感性と負けん気で精進したことが随所に伺えた。

人が夢を持つことは大切なことである。その殆どが途中で自分自身の心に負けて諦めてしまうことも多い中、今やるべき時に苦労しながら >も頑張って実力をつけておけば夢は広がり、その夢を掴むことができる。これが小生の持論である。それを証明したのが遠山監督ではなか ミろうか。自分の子どもを信じて精一杯の応援をされた家族、特にお母さんの後押しは大きい。本校の子どもたちには、今後、夢を夢で終わら ミせないような人生を是非とも歩んでいってほしいと強く願うばかりである。 それには、まず今の努力(毎日こつこつ)が一番大切なのである。 ミ